

「やればできる」の自信をもち主体的に学ぶ生徒の育成

～考え、話し合い、学び合う学習をととした「学力向上」への取組～



- 学校名 久喜市立鷺宮中学校
- 所在地 久喜市鷺宮782
- TEL 0480-58-1004
- E-mail washinomiya-j@kuki-city.ed.jp
- URL <http://www.kuki-city.ed.jp/washinomiya-j/>

1 研究主題

(1) 研究主題

「やればできる」の自信をもち主体的に学ぶ生徒の育成
～考え、話し合い、学び合う学習をととした「学力向上」への取組～

(2) 研究主題設定の理由

「自分でもやればできる」という自信（自己効力感＝自分の能力を信じる力）をもって、何事にもチャレンジして自分を大きくしていくことは、中学生の時期に大変重要である。本校では、学校教育目標に『「やればできる」の気迫をもち、主体的に自分を鍛える生徒』を掲げている。この目標を具現化するためには、まずは、学ぶことに興味や関心をもたせ、各教科・領域の基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせることが必要である。さらに、見通しをもって粘り強く取り組ませ、継続させることによって、主体的な学びにつながると考える。そうすることによって生まれる「できる」「分かる」という自信が、子どもの自主性に反映され、自ら進んで活動に取り組む生徒を育てることになると考える。

以上のことから、本校の学校教育目標に掲げられている「やればできる」とは、自信や自己効力感と捉え、考え、話し合い、学び合う学習をととして、主体的な学びを促進し、「確かな学力」を育成することを目指して、本研究主題を設定した。

(3) 研究の仮説

仮説1 全教科で「考え、話し合い、学び合う学習」を取り入れた「生徒が主役」となる授業を展開することで、生徒の学習意欲が向上し、主体的な学びが促進され、個々の思考力・判断力・表現力が高まり、確かな学力が身に付くであろう。

〈授業が変わる〉〈教師が変わる〉

仮説2 成功体験を積むことで、基礎学力の向上及び、「やればできる」の気迫と自己効力感が養われ、主体的な学びが促進されるであろう。

〈生徒が変わる〉

2 研究の実践

(1) 仮説1の「授業が変わる」手立て

ア 指導案の改善

- ① 学校研究主題との関わりの中で、研究主題の (1)「やればできる」の自信 (2)主体的に学ぶ (3)考え、話し合い、学び合う学習 (4)学力向上 を各教科ではどのように捉えているかを明記する。
- ② 展開の指導上の留意点に、生徒指導の3つの機能（自己存在感・自己決定・共感的理解）とアクティブ・ラーニングのポイントを明記する。

イ 「新しい形の宿題」の導入

授業と一体化した予習的な課題を導入する。「中位層の学力向上」、「主体的な学びの促進」を目指し、学習への関心を高め、めあて・見通しを容易にもたせる手立てとして有効であると考え。さらに、めあて・見通しが容易にもてることで、導入の時間を短縮し、学び合いの時間を増やすことができる。

ウ 「思考ツール」の導入

生徒の思考のプロセスにおいて見えにくいものを、思考ツールを使って見えるようにする。さらには、生徒の学習参加を促す。(例えば付箋を書くことをきっかけに学習に参加できる。) 本質は、生徒の考え、話し合い、学び合いの様子を可視化していくことである。

エ 「自己評価シート(授業)」の改善

① 現状、各教科で行っている授業の自己評価(振り返り)に、校内の統一ルールを設定する。

② 4段階評価とする。

(3または5段階では中央値が多くなってしまうため。)

③ 「授業の内容についての質問」を記述させることで、振り返りの充実と記述式の問題の練習を図る。

オ 学習規律の徹底

① 「“やればできる”ための授業規律5カ条」の授業規律を職員全体で共通理解し、徹底を図る。

② 学級委員会でチャーム着席キャンペーンを実施。

カ すべての教科における研究授業の実施

① すべての教科における研究授業を実施する。

② 授業参観記録用紙を活用し、研究協議を行う。

(2) 仮説2の「生徒が変わる」手立て

ア 「やればできるテスト」の年間を通じての実施

① 目的

- ・「やればできる」を具現化し、学習に対する前向きな心情を養う機会とする。
- ・定期テストの間に実施することで、学習を習慣化させる。
- ・学年、学級で取り組み、生徒指導的な面も含めて仲間とともに達成する行事とする。
- ・低学力層への学力保障の場とする。
- ・保護者への情報提供と協力を依頼し、学校・家庭が一体となり学力向上に努める。

② 実施方法

- ・年間各教科5回行う。(1学期2回、2学期2回、3学期1回)
- ・1週間1教科とし、3週にわたって行う。(やれでき月間・やれでき週間)
- ・プレテスト(火曜日)で不合格の生徒には、本番(金曜日)までに「補習・宿題」を課す。
- ・合格は80%以上とし、全生徒が合格できるような取り組みとする。
- ・「学習のあゆみ(定期テスト個票)」にやれできの結果を記入する。

イ 「自己評価シート(行事)(学期末)」の改善

以前の行事の反省は、各学年や学級別に項目や形式を決めて実施していた。学校教育目標である「やればできる」という自己効力感を高める

授業参観記録用紙				
項目(内容)	授業者【 】	教科等【 】	参観者【 】	評価 A・B・C
1 課題の提示の仕方は適切か。				
2 授業の見通しを持たせているか。				
3 授業参観は効果的か。				
4 授業参観の目的が、				
5 授業参観の目的が、				
6 授業参観の目的が、				
7 授業参観の目的が、				
8 授業参観の目的が、				
9 授業参観の目的が、				
10 授業参観の目的が、				
11 授業参観の目的が、				
12 授業参観の目的が、				
13 授業参観の目的が、				
14 授業参観の目的が、				
15 授業参観の目的が、				
16 授業参観の目的が、				
17 授業参観の目的が、				
18 授業参観の目的が、				
19 授業参観の目的が、				
20 授業参観の目的が、				
21 授業参観の目的が、				
22 授業参観の目的が、				
23 授業参観の目的が、				
24 授業参観の目的が、				
25 授業参観の目的が、				
26 授業参観の目的が、				
27 授業参観の目的が、				
28 授業参観の目的が、				
29 授業参観の目的が、				
30 授業参観の目的が、				
31 授業参観の目的が、				
32 授業参観の目的が、				
33 授業参観の目的が、				
34 授業参観の目的が、				
35 授業参観の目的が、				
36 授業参観の目的が、				
37 授業参観の目的が、				
38 授業参観の目的が、				
39 授業参観の目的が、				
40 授業参観の目的が、				
41 授業参観の目的が、				
42 授業参観の目的が、				
43 授業参観の目的が、				
44 授業参観の目的が、				
45 授業参観の目的が、				
46 授業参観の目的が、				
47 授業参観の目的が、				
48 授業参観の目的が、				
49 授業参観の目的が、				
50 授業参観の目的が、				
51 授業参観の目的が、				
52 授業参観の目的が、				
53 授業参観の目的が、				
54 授業参観の目的が、				
55 授業参観の目的が、				
56 授業参観の目的が、				
57 授業参観の目的が、				
58 授業参観の目的が、				
59 授業参観の目的が、				
60 授業参観の目的が、				
61 授業参観の目的が、				
62 授業参観の目的が、				
63 授業参観の目的が、				
64 授業参観の目的が、				
65 授業参観の目的が、				
66 授業参観の目的が、				
67 授業参観の目的が、				
68 授業参観の目的が、				
69 授業参観の目的が、				
70 授業参観の目的が、				
71 授業参観の目的が、				
72 授業参観の目的が、				
73 授業参観の目的が、				
74 授業参観の目的が、				
75 授業参観の目的が、				
76 授業参観の目的が、				
77 授業参観の目的が、				
78 授業参観の目的が、				
79 授業参観の目的が、				
80 授業参観の目的が、				
81 授業参観の目的が、				
82 授業参観の目的が、				
83 授業参観の目的が、				
84 授業参観の目的が、				
85 授業参観の目的が、				
86 授業参観の目的が、				
87 授業参観の目的が、				
88 授業参観の目的が、				
89 授業参観の目的が、				
90 授業参観の目的が、				
91 授業参観の目的が、				
92 授業参観の目的が、				
93 授業参観の目的が、				
94 授業参観の目的が、				
95 授業参観の目的が、				
96 授業参観の目的が、				
97 授業参観の目的が、				
98 授業参観の目的が、				
99 授業参観の目的が、				
100 授業参観の目的が、				

研究授業の観察の視点に係るポイント

項目(内容)	評価 A・B・C
1 研究授業の観察の視点(主体的・能動的で深い学び)	
2 ① 教師が生徒・生徒同士との対話で、思考が深まっているか。	
3 ② 生徒が教師の考えや考え方を深く理解することができる議論が展開しているか。	
4 ③ 教師の問いに対し、教師の問いに対して「前」道しをしながら、生徒はよく考えさせているか。	
5 ④ 自分が考える文章等でまとめる活動に取り組んでいるか、考えが深まったことを確認しているか。	

研究協議のテーマにそった、意見や感想を記入してください。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

ア 質問紙・アンケート結果

□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。(全国学調)

鷺宮中	47.7%	37.2%	12.8%	2.3%
埼玉県	35.4%	45.2%	13.9%	5.3%
全国	32.4%	43.9%	17.3%	6.3%

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか。(全国学調)

鷺宮中	32.6%	38.4%	25.6%	3.5%
埼玉県	19.9%	41.2%	28.8%	9.8%
全国	16.6%	37.2%	33.4%	12.5%

授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたか。(全国学調)

鷺宮中	71.8%	23.4%	4.8%
埼玉県	52.8%	37.7%	7.5%
全国	53.1%	34.7%	9.4%

授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか。(全国学調)

鷺宮中	41.9%	45.2%	10.5%	
埼玉県	29.3%	44.3%	21.3%	4.8%
全国	25.3%	40.8%	26.7%	7.0%

家庭学習は、毎日取り組んでいるか。(学校独自アンケート)

H30	42.1%	32.8%	18.1%	7.0%
H29	33.6%	38.0%	19.8%	8.6%
H28	32.7%	36.5%	23.2%	7.6%
H27	31.7%	30.6%	25.2%	12.5%

1日(平日の平均)の家庭学習の時間はどのくらいか。(学校独自アンケート)

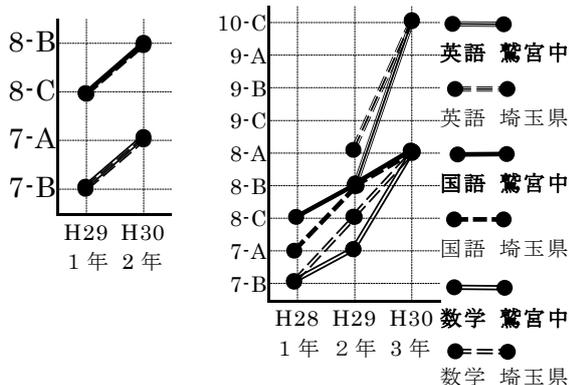
□2時間1分以上 □1時間1分以上2時間以下 □31分以上1時間以下 □30分以下 □やらない

H30	25.1%	33.4%	30.1%	8.4%	
H29	20.6%	32.1%	34.9%	11.2%	
H28	14.5%	28.5%	37.9%	12.8%	6.0%
H27	8.7%	34.0%	37.3%	16.2%	4.0%

「アクティブ・ラーニング」の導入によって、全職員が高いモラルをもち、「考え、話し合い、学び合う学習」を意識した授業を継続することができた。また、授業のスタンダードとして、「めあて・見通し」→「学び合い」→「まとめ・振り返り」の流れが、全職員に浸透してきた。

イ 学力の結果(埼玉県学力・学習状況調査)

①学力の伸び



②県平均を上回った学年と教科の正答率

	2年国語		3年国語		3年数学	
	全体	記述式	全体	記述式	全体	記述式
鷺宮中	58.3	60.2	62.1	57.0	62.1	32.6
埼玉県	55.6	52.1	61.7	57.4	59.1	29.3
差	+2.7	+8.1	+0.4	-0.4	+3.0	+3.2

③前年度より学力が伸びた割合

	国語			数学			英語
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	3年
鷺宮中	71.2	62.4	66.3	78.6	55.4	83.7	94.2
埼玉県	67.0	57.4	60.9	70.6	64.2	69.1	90.9

記述式の正答率が高いことから、思考力・判断力・表現力の高まりが見られた。「考え、話し合い、学び合う学習」をとおして、「主体的・対話的で深い学び」も実現でき、学力向上が図れた。

(2) 課題

ア 毎年職員が多く入れ替わり、「考え、話し合い、学び合う学習」の研究内容の共通理解に時間がかかったり、温度差が生じたりし、その差が学年や教科による成果の差につながっている。

イ 基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組と、「見方・考え方」を働かせる「深い学び」の実現を図る取組とのよりよいバランスと効果的な取組が難しい。